

認知症初期集中支援チーム の活動について



蓮田市『はすびい』

蓮田市長寿支援課

認知症初期集中支援推進事業

認知症初期集中支援推進事業

【目的】 認知症になっても本人の意思が尊重され、出来る限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「**認知症初期集中支援チーム**」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的とする。

◎ 認知症初期集中支援チーム

◆ 事業内容

支援チームは、地域包括支援センター、**病院等に配置することとし**、認知症専門医の指導の下、複数の専門職が認知症の人やその家族を訪問、観察・評価、家族支援などの**初期の支援を集中的**に行い、自立生活のサポートを行う。

◆ 支援チームの構成員

①以下の要件をすべて満たす者2名以上とする。

- ・医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、作業療法士、介護福祉士、精神保健福祉士等の専門職及び市町村が認めた者
- ・認知症ケア等の実務・相談業務に3年以上の経験がある者
- ・また、国が定める研修を受講し、必要な知識・技能を習得する者

②日本老年学会若しくは日本認知症学会の定める**専門医**又は認知症疾患の鑑別診断等の臨床経験を5年以上有し、**認知症サポート医**である医師1名

◎ 認知症初期集中支援チーム

・平成28年4月から開始（蓮田よつば病院に事業委託）

◆ 訪問支援対象者

40歳以上で、在宅生活をしている認知症が疑われる人、
又は認知症の人で以下、a、bのうちのいずれかの基準に該当する者

a 医療サービス、介護サービスを受けていない者、または
中断している者で以下のいずれかに該当する者

- ① 認知症疾患の臨床診断を受けていない者
- ② 継続的な医療サービスを受けていない者
- ③ 適切な介護サービスに結びついていない者
- ④ 介護サービスが中断している者

b 医療サービス、介護サービスを受けているが、認知症の
行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している者

認知症初期集中支援チーム 支援の流れ

認知症が疑われる人・
認知症がある人及び
その家族

相談

相談

地域住民、関係機関、
団体等

かかりつけ医 病院
介護支援専門員
社会福祉協議会
介護施設
民生委員 地域住民
その他関係者

情報伝達

地域包括支援センター

依頼

情報伝達

認知症初期集中支援チーム
(蓮田よつば病院内)

①依頼受付

◎情報収集(本人の現病歴、既往歴、
生活情報、家族の情報等)

◎訪問調整

②初回訪問時の支援

・生活上の助言・介護サービス
利用勧奨 ・身体を整えるケア
の助言・家族への心理的支援

③支援方針の検討

◎チーム員会議

④初期集中支援の実施

・医療機関の受診勧奨、支援
・介護サービスの利用勧奨、支援
・生活環境の改善 ・家族支援 等

⑤支援の終了(※概ね6か月)

◎医療や介護等担当者へ引継ぎ

⑥モニタリング

◎その後の状況確認

認知症初期集中支援の効果

【効果】

- 早期に対応し、専門医療機関への受診や介護サービス利用等につなげることで、本人の生活や症状が安定する。
- 今まで対応に困っていた家族（介護者）への助言・相談や関係者と一緒に支援方針を考えていくことで、心理的負担の軽減になる。

認知症初期集中支援チーム 検討委員会



蓮田市『はすびい』

認知症初期集中支援チームの活動実績

【対象者】

	R7 (R8.1月末現在)	
	男性	女性
60代	—	—
70代	2	1
80代	1	—
90代	—	—
計	4	

【相談経路】※複数回答あり

	R7 (R8.1月末現在)
本人	—
配偶者	2
子	3
孫	—
兄弟姉妹	—
おい・めい	—
担当ケアマネ・地域包括	—

【支援回数】

	R7
1回	1
2回	1
3回	2

【終結までの支援期間】

	R7
1～2か月	3
3～4か月	—
5～6か月	1
6か月以上	—

R8年1月現在 訪問件数9件

《資料2》別添資料 をご参照ください

事例①、②、③、④

事例から見えた共通点

- 相談時点で、すでに症状が進行しているケースが多い
- 受診拒否、または定期受診につながっていないケースが多い
- 家族が対応に苦慮している
- チームの役割は、医療・家族間の調整が中心となっている

事例から見えた主な成果

- 医療未受診だったケースが受診につながった
- 介護サービスの利用により、生活の安定が図られた
- 家族の不安や負担感の軽減がみられた
- 医療・地域包括支援センターとの連携により支援体制が構築できた

事例から見た主な課題

- 相談時点で、すでに症状が進行しているケースが多い

→ 周知・発見の課題

- 受診拒否により医療連携に時間を要する

→ 医療連携の課題

- 老老介護、家族の介護力の弱さ

→ 家族支援の必要性

事例から見た初期集中支援チームの役割・機能

○本人の困りごとと家族の困りごとを整理、共有し、両者の意向を踏まえた支援方針の調整を行う

- 支援チームメンバーは、訪問することで、本人の普段の様子を確認しながら聞き取りを行う
(本人の生活上の困りごと・希望、家族との関係性など)
- 本人の意思と家族の希望の擦り合わせを行う
(説明・説得・調整など)
- 医療・介護サービスへの橋渡しをする

○今年度の事例は医療受診が必要なケースが多かったが、より早期の段階での関わりや支援も可能

- 初期症状※が出たときに関わることで、適切な関わり方や環境を共有できる。
- 家族相談の活用など

※約束事などを忘れたことを忘れてしまうとき、社会的なつながりをなくし始めたときなど

本日ご意見いただきたいこと

本日の報告を踏まえ、

●認知症初期集中支援事業が、適切に機能しているかについて

●今後の事業運営や支援体制の充実に向けた課題及び改善の方向性について

各所属、職種等のお立場からご意見お願いいたします。